

のびるよ そだつよ

国立市立国立第五小学校 研究便り

校長 向井 美紀

NO. 3 令和2年11月27日

(編集：国立第五小学校 研究部)

この「のびるよ そだつよ」は、本校が進めている研究活動を保護者の皆様にご紹介するための研究便りです。研究内容や公開授業の日程、子供たちの様子等をホームページ上でお知らせしていきます。

6年2組 国語 「やまなし」 11月2日(月)



6年生は、宮沢賢治の『やまなし』で研究授業を行いました。作品を初めて読んだ時にはその意味を捉えることは困難でしたが、5月と11月の2つの場面を比べて印象の違いを考えたり、なぜ最後にしか出てこない「やまなし」が題名なのかを話し合ったりすることで、少しずつ作者の思いに迫ることができました。そして、学習の終末では、宮沢賢治の他の作品や伝記から根拠を見付け、それらを『やまなし』と結びつけながら作者の思いを自分なりにまとめました。本時では、それをもとに伝え合いをし、自分と友達の考えの共通点や相違点を比べながら聞くことで、考えをさらに深めたり広げたりすることができました。

今後も様々な伝え合いの場面で友達の多様な考えに触れることで、自分の考えを深めたり広げたりして行ってほしいと思います。



2年1組 国語 「お手紙」 11月11日(水)

「お手紙」の音読劇をすることを目指して学習を進めました。お話の内容や、登場人物の様子、気持ちを読み取り、音読の練習をしました。

読み取るときに、登場人物の気持ちを「気持ちものさし」で表し、目で見えるようにしました。これがあることで、友達と考えの違いや同じところを伝え合いやすくなりました。また、一人一人が自分の考えを伝えられるように、少人数での話し合いの時間をつくりました。そして、「がまくんは、『あきあきたよ』という言葉から、いやな気持ちです。」「落ち込んでいるがまくんを見て、自分も気持ちが沈んでいます。」など、読み取ったことを皆で共有し、その気持ちを音読で表現するように、役に分かれて音読をしました。その後、グループで聞き合い、「がまくんの気持ちになって読めていたよ。」「読むはやさがちょうどよかった。」など、お互いの良いところを伝え合いました。



この後、音読の練習を続け、友達の音読の良さを自分の音読に生かしながら、音読劇を楽しんで行うことができました。今後も友達と共に学びを進めていきたいと思っています。